

2021年度 第1回運用容量検討会 議事録

日 時：2021年5月14日（金）13：10～15：30

場 所：Web 開催

出席者：

- 阿彦 幸一（北海道電力ネットワーク株式会社 工務部系統運用グループリーダー）
- 上石 晃（東北電力ネットワーク株式会社 電力システム部給電グループ課長）
- 菊田 政雄（東京電力パワーグリッド株式会社 系統運用部系統運用計画グループマネージャー）
- 甲斐 静治（中部電力パワーグリッド株式会社 系統運用部系統技術グループ課長）
- 山田 義徳（北陸電力送配電株式会社 電力流通部系統運用・保護チーム統括課長）
- 沢井 一智（関西電力送配電株式会社 系統運用部系統技術グループチーフマネージャー）
- 保田 創（中国電力ネットワーク株式会社 系統運用部系統技術グループマネージャー）
- 鍋島 晃（四国電力送配電株式会社 系統運用部給電グループリーダー）
- 中澤 雅明（九州電力送配電株式会社 系統技術本部電力品質グループ長）
- 飯塚 俊夫（電源開発送変電ネットワーク株式会社 変電・系統技術部系統技術グループリーダー）

事務局

- 石井 幹也（電力広域的運営推進機関 運用部長）
- 田治見 淳（電力広域的運営推進機関 運用部担当部長）
- 多田 光伸（電力広域的運営推進機関 運用部マネージャー）
- 田中 孝明（電力広域的運営推進機関 運用部マネージャー）
- 寺島 正浩（電力広域的運営推進機関 運用部）
- 後藤 光（電力広域的運営推進機関 運用部）
- 山内 賢一（電力広域的運営推進機関 運用部）
- 中澤 佳経（電力広域的運営推進機関 運用部）

配布資料

- 1 連系線の運用容量算出における検討条件について（2022～2031年度）
- 2 運用容量算出における課題の検討について
- 3 中国四国間連系線（中国向）下げ代不足が想定される場合の運用容量の反映について
- 4 関西中国間連系線（関西向）におけるその他季潮流想定方法の夏季・冬季への適用について
- 5 中国九州間連系線（中国向）年間・月間の運用容量算出における電制電源の出力想定について

議題1：連系線の運用容量算出における検討条件について

事務局から資料1について説明を行った。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

- ：本資料については、業務規程第126条第1項の規定に基づき、5月末までに公表する。

議題2：運用容量算出における課題の検討について

事務局から資料2について説明を行った。主な議論は以下のとおり。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

課題1「熱容量限度値に対する同期・電圧安定性の事前確認」

- ：検討結果取り纏めに向けては、2021年度分データファイルを用いることとし、同期・電圧安定性を課題2で整理する夏季・冬季の熱容量限度値まで算出していただきたい。
- ：同期・電圧安定性限度値の算出は来年度以降、毎年実施していくものなのか、それとも今回の検討に限るものなのか。今回の検討で、同期・電圧安定性限度値が熱容量限度値を上回ることを確認すれば、系統構成等が大きく変わらない限り、毎年、同期・電圧安定性限度値を算出する必要はないのではないか。
- ：今回の検討は、熱容量限度値で同期・電圧安定性を確認し、不安定であれば同期・電圧安定性限度値を算出するものである。

課題2「夏季・冬季熱容量の整理・公表」

- ：本課題の目的は、熱容量を正確に把握した上で夏季・冬季熱容量を公表することである。本課題の幹事会社については、以前、中部関西間連系線の冬季熱容量適用を検討した中部電力PGにお願いする。

課題3「周波数維持限度値算出における特殊日等の設定に関する見直し」

- ：先般の需給ひっ迫や、昨今の再エネ電源増加等により、系統の利用状況は変化している中、運用容量算出の考え方に対しては、これまで以上に注目されてきている。運用容量算出の考え方の一つである「特殊日等の設定方法」については、まずは、これまでの設定方法詳細を把握し、整理することが当面の目標であると理解していただきたい。
- ：整理した結果、細分化するといった話になると、今まで以上の労力や算出期間が必要になる。よって、本課題の検討結果に対する判断には、労力や算出期間へ与える影響を加味する必要があると考える。
- ：その観点も含めて、今後の検討の中で議論させていただきたい。

議題3：中国四国間連系線（中国向）下げ代不足が想定される場合の運用容量の反映について

事務局から資料3について説明を行った。主な議論は以下のとおり。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

- ：下げ代不足が想定される場合、再エネ出力制御の固定スケジュール設定時間帯は、中国四国間連系線の短時間値（145万kW）が適用され、その時間帯において1回線事故が発生したら、4時間以内に過負荷を解消させるという理解で良いか。
- ：その理解で良い。系統安定化装置と再エネ出力制御システムを組み合わせたシステムの構築は、9月末に完了する予定か。
- ：2021年10月1日以降、下げ代不足が想定される場合、その運用容量を適用できるよう、9月末までにシステム構築を完了するスケジュールで進めている。

議題4：関西中国間連系線（関西向）におけるその他季潮流想定方法の夏季・冬季への適用について
中国電力NWから資料4について説明を行った。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

- ：本検討結果を踏まえて、関西中国間連系線（関西向）の2021年度（夏季・冬季）運用容量を変更する。

議題5：中国九州間連系線（中国向）年間・月間の運用容量算出における電制電源の出力想定について
九州電力送配電から資料5について説明を行った。主な議論は以下のとおり。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

- ：毎年5月に電制電源出力の織込み量を昨年度分の実績から検討しているが、電制電源がトラブルにより停止した場合や、需給ひっ迫が見込まれる場合でも、年一回の検討の為に月間を変更しないとといったミスリードにならないか懸念している。実績から検討するタイミングは年一回が適正と言えるか。
- ：今年度は設備トラブルに伴う電制電源の停止により、九州エリア周波数上昇限度値が制約となっていることから、今回の事象については来年度ではなく一度確認はすることが必要か。まずは、今年の秋頃に実績データから電制電源出力の織込み量を検討することも考えられるが、詳細については、別途、事務局と調整することとしたい。

以 上